

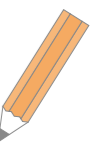
まちのわだい



TOWN TOPICS

まちのわだい募集

【問い合わせ先】
地域再生戦略課
町づくり推進室
☎68-3113



地域活性化に森と水

第11回森林シンポジウム

第11回森林シンポジウムが12月4日、農村環境改善センターで開催され、町内外から約100人が参加しました。

「森と水と地域の活性化」をテーマに、林業体験感想発表・基調講演・パネル討論が行われ、参加者は森林や水資源が地域活性化に大きな役割を果たしていることについて理解を深めました。

林業体験感想発表では、二部小学校4年生が森林教室での体験内容を、岸本中学校2年生が林業職場体験内容を発表しました。

続いて行われた基調講演では、鳥取大学農学部の方賀弘和准教授が、「森と川のつながり」森に降った雨のゆくえを追う」と題し講演しました。

またパネル討論では、新日本海新聞社西部本社の寺谷寛代表をコーディネーターに、久米桜麦酒株式会社の田村源太郎社長、丸山集落営農組合の山西敦組合長、八郷小学校の古都英幸校長、方賀准教授の4人が「森と水と地域の活性化」について議論しました。



林業職場体験発表を行なう岸本中学校の生徒

つくろう つなげよう ほうぎの輪10

第25回岸本きないや祭

第25回岸本きないや祭が、11月20日、21日の2日間開催され、岸本公民館を中心に、様々なイベントが行われました。

岸本駅前「吉長市」、公民館裏駐車場で「青空市」が開催されたほか、保育園児や小学生の作品展、町内外から6団体が参加した「和太鼓コンサート」などが開催されました。また、岸本・八郷小学校6年生による「こどもみこし」が会場内を練り歩き、大勢の来場者で賑わいました。



会場内を練り歩くこどもみこし

日本一のどぶろくを目指して

新酒発表会

どぶろく特区の認定を受け、どぶろくを醸造している「まちづくり会社株式会社 上代」が11月25日、廃校となった二部小学校福岡分校体育館で、新酒の発表会を行いました。

新酒発表会には、県や町の関係者や出資者など約30人が出席。15日に瓶詰めしたばかりのどぶろくを味わいました。早速試飲した参加者は「まろやかな味わいで、とてもおいしい」と顔をほころばせていました。住田圭成社長は、「昨年の経験を基に、より良いものを作る努力をした。日本一を目指して頑張りたい」と意気込みを語りました。



新酒発表会の様子

未来のまちづくりについて

伯耆町の未来を語る会

未来のまちづくりについて、住民と一緒に考える地区別懇談会「伯耆町の未来を語る会」が、11月22日から12月9日にかけて町内6会場で開催されました。

懇談会では始めに、森安町長が伯耆町の人口の推移や高齢化率の状況、産業構造の変化など伯耆町の現状や、昨年10月に実施した「まちづくりアンケート」の結果からみた町民意識などについて説明しました。

説明後に行われた意見交換の場では、学校統合問題や町道の補修、猪による被害など多岐にわたる意見や質問が出され、その一つ一つについて、町長や課長が返答しました。

1会場1時間半と短時間でしたが、有意義な懇談会となりました。



幡郷地区での懇談会

災害に強いまちづくりを目指して

まちづくり講演会

防災意識を高め、災害に強いまちづくりを目指そうと、まちづくり講演会が12月8日に開催されました。この講演会は区長協議会定例会に先立ち行なわれたもので、各集落の区長ら約80名が参加しました。

日本防災士会鳥取県支部 板秀樹防災士が「今日からできる地震対策」と題し、伯耆町防災マップの活用方法や災害時の安全を確保する方法、日頃から気をつけておくことなどを紹介しました。また、「阪神淡路大震災から学ぶ、家の耐震化や防災道具の準備の仕方」などが紹介され、来場者は興味深く耳を傾けていました。



蕎麦打ち体験をする参加者



まちづくり講演会の様子

おいしい蕎麦ができました

日光地区協議会交流イベント

日光地区協議会と米子市の義方公民館との交流イベントが、12月1日に行われました。

これは、昨年より交流を進めているもので、今回は義方地区住民21人を日光地区に招き、蕎麦打ち体験を行いました。

蕎麦打ちが初めての義方地区住民ですが、鬼っこそばの会の指導により、見事な蕎麦を次々と作り上げていきました。出来上がった蕎麦は、その場で茹でられ、出来立てを味わいました。参加者は「とても楽しかった、もう一度やってみたい」と蕎麦打ちを堪能した様子でした。

また参加者は、富江のねぎ畑で、ねぎの収穫作業を体験し、充実した一日を過ごしました。